

(仮称) 都筑区緑道再整備ガイドラインヒアリング調査の結果について

1、ヒアリング調査参加団体の内訳

① 16 団体に平成 29 年 11 月 25 日～平成 29 年 12 月 27 日までヒアリング調査を実施しました。

公園愛護会	7 団体
街づくり系団体	4 団体
環境保全系団体	3 団体
大学	1 団体
都筑区民生委員	1 団体

② 緑道の建設に携わった本市 OB、UR 関係者の方にもヒアリングを実施しました。

2、ヒアリング調査で寄せられた主な意見

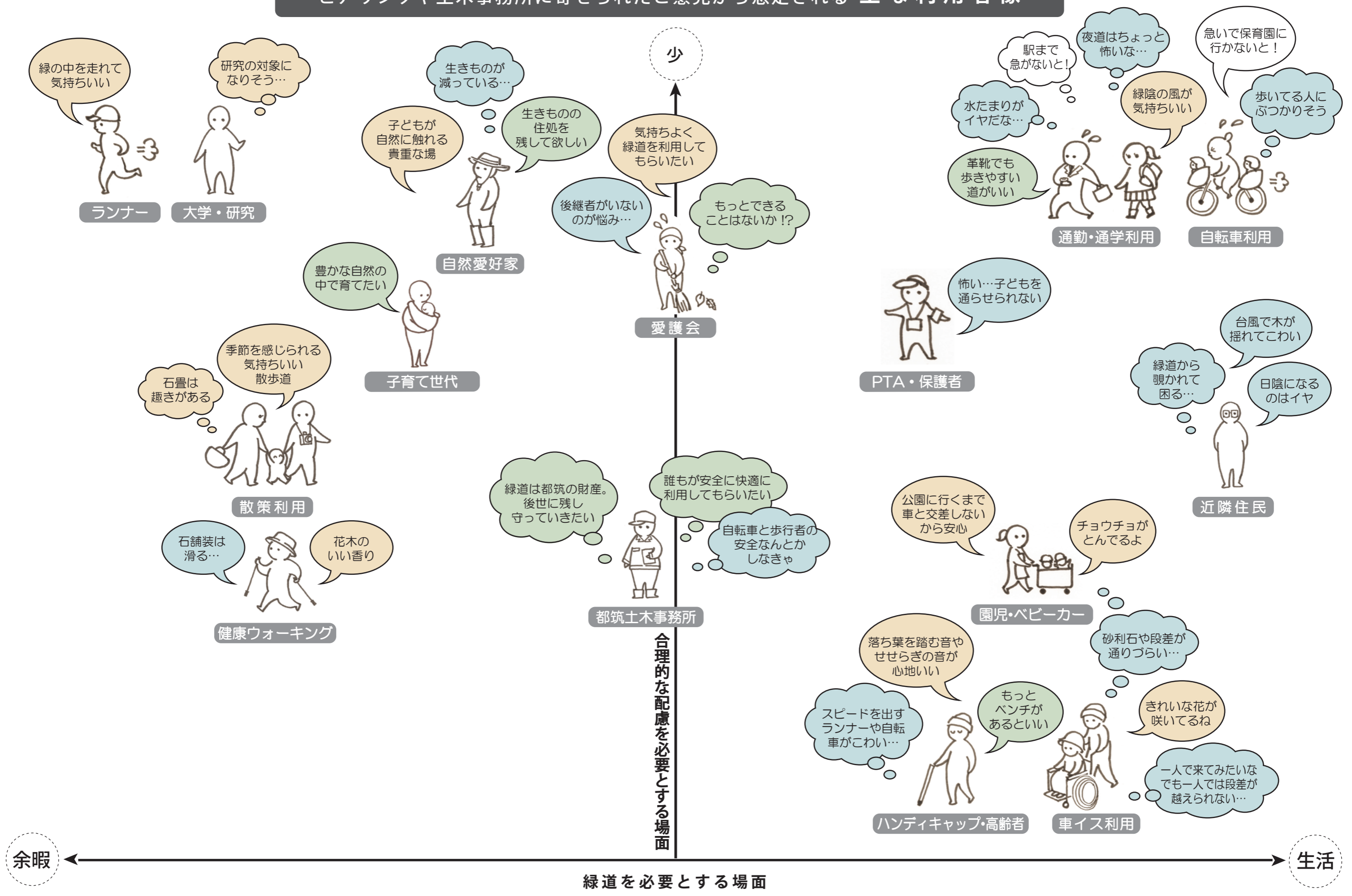
(別紙 「緑道のこれからを考えるヒアリング調査ヒアリング結果整理表」 参照)

3、今後のスケジュール

ヒアリングなどの結果を踏まえてより皆様のご意見を取り入れるため、スケジュールを見直しました。

- ・春ごろを目途に基本的な考え方の整理を行い、素案としてホームページに公表します。それに対する意見交換会を予定しています。
- ・結果を踏まえて、来年度の秋以降に「(仮称) 都筑区緑道再整備ガイドライン (案)」を策定し、公表する予定です。
- ・またみなさまと共通認識をもつため、各工事の見学会等に加え、ささぶねのみちなどの他路線についても現地見学会を実施する予定です (春ごろから随時行っていきます。)

ヒアリングや土木事務所に寄せられたご意見から想定される 主な利用者像



緑道を必要とする場面

「緑道のこれからを考えるヒアリング調査」ヒアリング結果整理表

空間構成等 視点	1. 緑道全体	2. 園路	3. 樹林・植栽	4. 草地・花壇	5. せせらぎ・池	6. 付属施設 (トイレ、ベンチ、照明など)	7. サイン	
A. 魅力・将来像・シンボル	<ul style="list-style-type: none"> ・自然に近い造りで雰囲気が良い ・100年先を見据え価値を引き継いで欲しい ・緑道は生物多様性を担保する貴重な緑地 ・グリーンマトリックスを完成させて欲しい ・利便性追求ではなく緑を残す当初のビジョンを後世へ ・自己利益を越え良い街づくりを目指してきたいを大切に 	<ul style="list-style-type: none"> ・土の道が良い。子ども達に土の感触を ・石舗装が良い 	<ul style="list-style-type: none"> ・花木は四季を通して楽しめる 		<ul style="list-style-type: none"> ・視覚障がいの方はせせらぎの音を楽しんでいる 			
B. 景観・佇まい	<ul style="list-style-type: none"> ・全要望そのまま受け容れではなく統一感や景観重視を 	<ul style="list-style-type: none"> ・落ち葉に覆われた趣きが良い 			<ul style="list-style-type: none"> ・水量が少なくなりきれいではない 	<ul style="list-style-type: none"> ・工事期のコーン乱立は雰囲気壊す 	<ul style="list-style-type: none"> ・掲示物が多すぎる ・規制看板を多くすぎないように 	
C. デザイン (色彩・素材・ディテール)	<ul style="list-style-type: none"> ・当初設計の意図を重視し統一感ある再整備を ・再整備異なる仕様は場当たり的に見える ・高品質を維持し安易にチープにすべきではない 	<ul style="list-style-type: none"> ・火山レキは舗装材の候補と考える ・すべて石舗装にしてほしい ・間伐材のチップを敷くのがよい ・利用が多い箇所は石舗装、少ない箇所は土舗装がよい 				<ul style="list-style-type: none"> ・新設置の照明はデザイン的にそぐわない 	<ul style="list-style-type: none"> ・新設の際は汚れが付着しない垂直型を 	
D. 安全性	<ul style="list-style-type: none"> ・カーブが多く女性の一人夜道は危険 ・夜道が暗くて不安という女子学生が多い ・牛久保小は緑道通学を禁止している ・階段が暗いと危険 	<ul style="list-style-type: none"> ・せせらぎの道が暗すぎる ・雨の後のぬかるみを解消してほしい ・土舗装の大きい砂利につまづく ・石舗装の根上がり、境目の段差につまづく ・苔の石舗装坂道はすべりやすく危険 ・落ち葉で段差がわからなくなると危険 ・石舗装の苔は注意喚起があれば問題ない ・ランナーへの注意喚起が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・大胆な剪定で明るくなりよい ・常緑樹は暗く危険。落葉樹がよい 				<ul style="list-style-type: none"> ・街灯の早期点灯をしてほしい ・人感センサーの街灯を導入する ・照明高さが低くまぶしい ・照明の明暗の差が激しく均等にしてほしい 	
E. バリアフリー	<ul style="list-style-type: none"> ・バリアフリー前提ではなく緑道を特例扱いにできないか ・バリアフリー配慮と景観重視でエリアを分けるとよい 	<ul style="list-style-type: none"> ・石畳が良いが目地は埋めて欲しい ・杖を使う立場として多様な舗装は疲れる ・多様な径路、舗装を選択できない人もいる ・車イス利用者は砂利舗装がつかない ・自転車との共存を考慮車イス専用レーン検討も 				<ul style="list-style-type: none"> ・ベンチが少ない。小休憩用の腰掛けがほしい ・高齢者は和式トイレを敬遠する ・高齢者は階段を敬遠しスロープを利用する 		
F. 自然体験・生物多様性	<ul style="list-style-type: none"> ・植物、生きもののが減少している ・自然や生きものに触れる機会を喜ぶ場であって欲しい ・森づくりガイドラインをベースにした勉強会を ・生涯学習を行い市民の生態系への理解を底上げするとよい ・緑地生態系の観点で100年後の長期目標も必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・土舗装の水たまりも貴重 	<ul style="list-style-type: none"> ・路圧で樹木の根が弱っている ・小動物が息出来るとよい ・視覚、味覚で楽しめる実のなる樹種を植栽するのよい 	<ul style="list-style-type: none"> ・植物の減少は草刈り時期・刈高の影響 	<ul style="list-style-type: none"> ・ザリガニ捕りによる護岸石割しは問題 ・外来種駆除のため強い揺りが必要 ・ザリガニと在来種、エリアを分けるとよい 		<ul style="list-style-type: none"> ・生き物と緑地の関係がわかる看板を設置する ・樹名板(QRコード付き等)を設置してほしい ・解説板があった方がよい 	
G. 自転車	<ul style="list-style-type: none"> ・せきれいのみちが最も自転車が多い ・リーフレット配布等マナー啓発が必要 ・総合学習や町内会を通して利用マナー徹底を ・視覚障がいの方は自転車に気付けなため危険 ・緑道と自転車利用可能な生活道路と明確に区分を ・実際は生活道路であり、自転車禁止は無理がある ・車道での事故に比べ緑道の危険性の方が低い ・マナー問題がなければ共存できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・電動自転車が多く、スピードがあり危険 ・徐行を嫌う専用レーンは無視されている ・専用レーンの幅が狭く守れない ・歩行者専用道路と緑道の区別がわかりづらい ・石舗装目地にタイヤを取られると危険 ・自転車専用レーンを明確にわかりやすく ・凸凹道等、自然と徐行するような園路に ・狭い道に専用レーンが設置されている 						<ul style="list-style-type: none"> ・徐行は当たり前でありサインは不要 ・専用レーンの表示が多すぎる
H. 維持管理	<ul style="list-style-type: none"> ・管理や整備のアンバランスが目につく ・管理作業に参加してもらおうとクレームも変わる ・メンテナンス方法を教えて欲しい ・可能な作業メニュー集があるとよい ・森づくりガイドラインを参考にしている。都筑区版も示してほしい ・沿道企業と緑地管理方法を共有したい 	<ul style="list-style-type: none"> ・メンテナンスが楽な舗装材がよい ・苔対策は日常的に履くとよい ・舗装材よりも排水機能重視で検討した方がよい 	<ul style="list-style-type: none"> ・高木化樹木を剪定し明るくして欲しい ・害虫対策を行って欲しい ・落葉樹を萌芽更新していくとよい ・労力を掛ければ移植は可能 ・残材はバーベキュー等を行い極力焼却したい ・樹冠が隠って枝が変な方向に伸び根に負担がかかっている ・間伐材をチップ化して土に戻すとよい ・まき置場がほしい ・ドウダンツツジを強く刈込むと紅葉を楽しめない ・低木の刈高が子どもの目の高さだと危険 	<ul style="list-style-type: none"> ・生き物の住処に配慮した草地管理を ・一律ではなくエリア毎に草刈り程度のメリハリを 	<ul style="list-style-type: none"> ・落葉とり等清掃しやすい工夫を ・せせらぎの穴の修繕をして欲しい ・水系施設の整備が整っていない ・一度市に泥上げしてもらおうと作業しやすい ・せせらぎに落葉が溜まっている 	<ul style="list-style-type: none"> ・人目のない箇所のベンチはゴミ問題があり撤去してほしい 	<ul style="list-style-type: none"> ・マップ情報が古いので更新してほしい ・牛久保公園への案内サインが無い ・表面に汚れが付着しないような管理を 	
I. 再整備 ガイドライン	<ul style="list-style-type: none"> ・メンテナンスを意図したガイドラインを ・当初の考え方をガイドラインでぜひ残して欲しい ・環境、利用状況、管理状況等を調査した上でガイドラインを ・委員会を立ち上げ協議しながらガイドライン作成を ・市民の会で協議し共有すれば苦情も出なくなる ・ガイドライン策定までのフローチャートを示してほしい ・ガイドラインにゾーニング等の記載を ・ガイドライン策定後の検証と見直しも共有を ・広報を行い共有しながら進めるとよい ・完成後、HPで宣伝したい 							
J. その他	<ul style="list-style-type: none"> ・水溜り、段差等の危険因子も子供の成長により ・緑道の価値を総合学習等で伝えるべき ・もっと緑道のPRを ・緑道ガイドツアーや撮影会等の企画を ・緑道×テクノロジー等潜在的魅力を増幅する仕掛けを ・専門的知識もプラタモリの工夫で興味対象となる ・愛護会と企業の仲介を民間が行う事で可能性が広がる ・元々のコンセプトを伝える事で不便さの苦情は減る ・課題別の募金など住民の課題解決意識を引き出す工夫を ・小学校の総合学習等で利用マナー啓発を ・環境資源化して利用者増加や商業的活性化を ・オープンカフェが増えるとよい ・緑道コンシェルジュを配置して欲しい ・利用者が増え過ぎない方がよい ・市へ要望を出す前に愛護会と協議する仕組みを ・愛護会と土木事務所で協議の場を ・緑道関係者が一同に集まり話し合わせる場があるとよい 		<ul style="list-style-type: none"> ・タケノコを掘る人がいる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ベンチ前に花壇があると和む 		<ul style="list-style-type: none"> ・照明が明るすぎる。抑えて欲しい ・メイン通りと脇道で照度基準を分けるとよい ・地下鉄構造物に遮蔽物を設置してほしい 	<ul style="list-style-type: none"> ・見所や商業施設の誘導サインがあるとよい ・デジタルサインは更新が容易、住民参加のきっかけとなる 	